

中央区民文化財～新たに2件を登録・1件を指定しました～

中央区では、郷土の文化財として保護する必要があると認めたものを「中央区民文化財」として登録し、区民文化財の中から特に重要なものを「中央区指定文化財」として指定しています。

平成30年度は、4月1日付けで「日本橋野村ビルディング旧館」を登録および指定、「八丁堀三丁目遺跡内朗惺寺跡出土木製卒塔婆」を登録しました。今回の登録および指定により、「中央区民文化財」の登録件数は97件、指定件数は6件になりました。

登録番号第98号

1	登録名称	日本橋野村ビルディング旧館
2	登録種別	中央区民有形文化財 建造物
3	所在地	日本橋一丁目9番1号
4	所有者	野村殖産株式会社
5	員数	一棟
6	年代	昭和5年（1930）3月
7	構造	鉄骨鉄筋コンクリート構造
8	内容	

昭和5年（1930）に竣工した日本橋野村ビルディング旧館は、大阪に本店を置く野村財閥の中核銀行・大阪野村銀行が東京へ進出する際の拠点として建設された建物である。構造形式は、耐震耐火性能を重視した鉄骨鉄筋コンクリート構造による地上7階・地下2階建てで、建築面積約1,000㎡の建物である。当ビルディングは、日本橋南東詰から江戸橋南西詰に至る東西に広がる旧河岸地沿いの区画に立地しているため、建物の西側正面間口は約20メートル、奥行きは約50メートルと長方形の建物となっており、北側に流れる日本橋川に沿って東西に長い構造である。

当ビルディングの設計には、野村関係会社の設計を数多く手がけていた建築家・安井武雄^{やすいたけお}（1884～1955）が起用されている。大阪を中心に活動していた安井武雄の設計には、国の登録有形文化財として現存する「大阪倶楽部」（大正13年）や「大阪ガスビルディング」（昭和8年）のほか、「高麗橋野村ビルディング」^{こうらいばし}（昭和2年）などがあり、いずれも震災復興期に建てられた貴重な歴史的建造物として高い評価を得ている。特に、当ビルディングは、安井にとって東京初の設計作品であるとともに、現在では都内に唯一現存する安井の貴重な作品となっている。

外観意匠が特徴的な当ビルディングは、外壁の仕上げ材やデザインの違いが顕著にみられる仕上げとなっている。1階を稲田花崗岩^{いなだかこうがん}（昭和28年に長崎県五島産大春砂岩から改修）張りとし、各階にバランス良く配された縦長窓が並ぶ2階から6階は濃褐色のタイル張り、最上階の7階は白モルタルの外装となっている。このため、明と暗の配色によるリズム感のある3層構成が特徴的な外観を形成している。また、5階・6階および最上階の軒回りには、テラコッタによる帯状の装飾を施すことで水平感が強調されている。さらに、西側には銅板葺きの屋根や鉄塔を据えた東洋風の意匠を採用することで折衷様式による独特な外観を創出している。

9 登録理由

日本橋野村ビルディング旧館は、戦後に行われた建物の用途変更や増築工事などを伴いながらも、野村銀行および野村証券本社ビル時代の外観デザインや構造を保全・継承してきた歴史的建造物である。また、当ビルディングは日本橋橋詰に現存する希少な近代建築の一つであり、人々の目を引く個性ある上層階や風格ある独特のファサードがアイストップ的な役割を果たしており、日本橋地区の歴史的景観に大きく寄与している。以上の点から区民文化財として後世に残すべき貴重な文化財建造物である。

登録番号第99号

1	登録名称	八丁堀三丁目遺跡内朗愷寺跡出土木製卒塔婆
2	登録種別	中央区民有形文化財 考古資料
3	所在地	中央区晴海一丁目4番1号 中央区立月島第三小学校等複合施設内文化財倉庫
4	所有者	中央区
5	員数	90点
6	年代	近世
7	材質	木製
8	内容	

本資料は、昭和61年2月から3月にかけて実施された八丁堀三丁目19番（住居表示／1次調査）及び、平成13年9月から同年12月にかけて実施された八丁堀三丁目20番（住居表示／2次調査）における発掘調査で出土した、木製の卒塔婆である。土中で腐食の進んだものや折れたもの、出土した後の乾燥による風化が進んだものもあるが、保存状況はおおむね良好で、原形をとどめたものも多い。

卒塔婆は死者の供養のために立てられるもので、主に木製で、塔婆の一種として12世紀ころ出現した。日本独自のものであり、中世では木製に限らずあり、石製などの塔婆には正面に仏を一字で表した梵字（古代インドのサンスクリット文字）を書き、その下に仏の教えや仏の徳を詩句の体裁でたたえた偈、法名、供養目的、施主名、年月日の順で書くのが一般的であった。これら以外には、「南無阿弥陀仏」「南無妙法蓮華經」が書かれる。

本資料は、日蓮宗の興栄山朗愷寺の墓域などより出土した。朗愷寺は、徳川家康が江戸に入府した天正18年（1590）から文禄2年（1593）ころ、家康から土地を拝領し、仏乗院日愷により八丁堀で開山したとされる。大田区池上にある日蓮宗大本山長栄山本門寺（池上本門寺）の旧末寺で、明暦3年（1657）に大火で現港区高輪にあたる二本榎に移転し、明治43年（1910）現在地の品川区小山に移った。

八丁堀三丁目遺跡からは、1次調査では22点、2次調査では1,102点の合計1,124点もの木製卒塔婆が出土しており、日本最多の可能性がある。多くは追善供養に使用されたものと思われ、回忌ないし周忌が記されたものが多い。これらのうち、造立年、回忌ないし周忌の明確なもの、施主があるもの、童子、童女のものや、長さ350cm以上の長大なもの、角塔婆、六角塔婆、杭塔婆などの特徴的な形態のものを中心に選別した。1次調査では8点、2次調査では82点の合計90点を選別し、1次調査で出土した七本塔婆に付随する額についてもこれに含めた。

9 登録理由

江戸は、徳川氏の城下町を経て幕府所在地となり、当時の日本の中心的な地域にあたる。そうした江戸の御府内でも、更にその中心域である江戸城の郭内（浅草橋御門など、城門の内側の範囲）において、近世はじめころの寺墓が発掘調査された例は極めて少ない。八丁堀三丁目遺跡は、このころの寺院としては寺域の上下限が比較的明瞭且つ、江戸の郭内で最も古い時期の墓域が調査された寺院である。本遺跡の木製の卒塔婆は、そうした当時の日本の中心域にあった中央区における供養像や、中世からの変容、そして現代へと繋がる家意識を知るうえでも基準となり得る資料であり、重要な資料である。

指定番号第6号

1	指 定 名 称	日本橋野村ビルディング旧館
2	指 定 種 別	中央区民有形文化財（建造物）
3	所 在 地	日本橋一丁目9番1号
4	所 有 者	野村殖産株式会社
5	員 数	一棟
6	年 代	昭和5年（1930）3月
7	構 造	鉄骨鉄筋コンクリート構造
8	内 容	

昭和5年（1930）に竣工した日本橋野村ビルディング旧館は、大阪に本店を置く野村財閥の中核銀行・大阪野村銀行が東京へ進出する際の拠点として建設された建物である。構造形式は、耐震耐火性能を重視した鉄骨鉄筋コンクリート構造による地上7階・地下2階建てで、建築面積約1,000㎡の建物である。

当ビルディングの外観は、外壁仕上げの違いによって基壇部・中層部・上層部のクラシカルな3層構成を取るデザインに特徴がある。基壇部に当たる1階は、稲田花崗岩（昭和28年に長崎県五島産大春砂岩から改修）を張った仕上げで、角柱を立ち並べてコーニスいなかこうがんを回し、銀行建築にふさわしい重厚な印象を与えている。縦長の窓が上下に連続する中層部の2階から6階は、濃褐色の平滑なタイル張り（昭和59年～同60年にフェーシング・ブリックから張り替え改修）となっているが、タイル改修以前は各階ともに窓の下端位置で水平方向にモールディング（帯状に連続する装飾）を巡らせていた。また、6階の上部と下部には蛇腹状のテラコッタ装飾が施されており、華美な装飾を省きながら均衡と軽快なリズム感が創出されている。さらに、下層階よりもややセットバックした上層部の7階は、白モルタル仕上げの壁と曲面の隅角部や格子窓が軽やかで優しい造形を生み出しており、西側部分にある勾配の緩い銅板葺きの屋根や相輪そうりんを思わせる頂部の鉄塔と相まって東洋風の個性的なデザインとなっている。

9 指 定 理 由

日本橋野村ビルディング旧館は、全体から各部分に至るまで形の比例・均衡および垂直・水平方向の対比調和が厳しく追及された貴重な近代建築物である。全体としては堅固な量塊性を感じさせながら、リズムカルな明暗を持つ外装の造形表現によって、バランスの取れた美しい外観に特徴がある。また、構造・機能面においては、耐震耐火のために鉄骨鉄筋コンクリート造を採用し、各時代の動向や要請に応じて必要な諸機能を合理的に取捨選択しながら改修・改装が行われており、竣工から87年にわたって蓄積されてきた重層的な歴史の価値を有した建物となっている。中でも、当ビルディングは、時流にとらわれない独自の建築様式を追い求め、近代における新しい建築の有り方を示した安井武雄やすいたけおの代表作であり、建築作品としての完成度が高い建物でもある。なお、数々の名建築が建てられた日本橋橋詰の一等地において、唯一現存している極めて希少な近代建築であり、日本橋地区の歴史的景観に大きく寄与している点も高く評価できる。